

不安残す反走資派闘争

東京外語大助教授

中嶋嶺雄氏に聞く



文革から、脱革への潮流に乗って高潮の復活を待たず、再び走資派のレッテルをばらけ、ついに解任された。革命・中国の誕生後、大きなうねりのうちに繰り返されて来た路線闘争のきこしさを改めて思い知らす出来事だった。中国現代史研究の中嶋嶺雄氏(東京外語大助教授)に、路線闘争の持つ意味と背景、文革推進派と大家とのつながりなどを聞いた。

鄧復活は周主導

鄧小平氏の復活から天安門事件後の、赤い手も見せぬ、解任決定に至るまでを振り返ると、路線闘争の性格が特徴的に浮かび上がってくると思うが。

中嶋 今回の鄧小平氏の復活で感ずるのは、中国の路線闘争そのものが非常に根深いというところ、走資派、お即個人にとりまわりの深刻な背景があるというところだ。現在の文革派につながる路線とこのフロンティアともいえるべき流れが中国の社会の中にあるという事実をこれまでにいくらかは認識した。

力づくの文革派 毛側近政治への批判葬る

江青夫人にも批判

路線闘争が必ずしもいつまでも

やはり周首相の専横のものと行われたことが確認されたように思われる。

だが、これが常に権力闘争的色彩を帯びてくるのは、政策論争を政策論争として浄化する政治の仕組みがないためだ。毛沢東が百家争鳴運動(一九五六年)を展開したときも運動が最終的に毛政治への批判になると、力を押してしまつた。それ以来、毛沢東に対する反対意見が出てくる、力によつて、あるいは大衆運動によつて打倒するというパターンが定着してしまつていて、西歐型の社会主義的民主主義を制度的に保証することができない。だから論争は常に食うか食われるかの闘争になりがちで、争いごとになる。

また、こんな事件をみてもわかるように、中国人はもともと政治の世界で人間のドラマが演じられるのを好むようだ。ある意味では「三国志」以来の伝統かもしれない。この性格も政策論争が党内の主要権争いに発展する原因のひとつといえるかもしれない。

もう一つ、中国には何れ政治もあるいは毛沢東政治にみられるような権威の家長政治的な流れがあり、この面からも権力闘争に巻き込まれがちだ。これは毛沢東政治にとって悲劇であるともいえる。ポスト毛、に大きな不安を残すことになるからである。

天安門事件は中国にとってユニークな事件だった。お国柄からいって数十万人の人が自然発生的に集まることは考えられず、参加した人たちは「自覚をもって組織された者」となるのが常識的であろう。鄧支持とまではいかなくても、走資派批判に対する不満や周批判への発展をおそれた人たちがみるに、このことがいかに思ふ。とくに暴力的なのは、事件の中で若い層から文革派の中心人物である江青夫人への批判が行われたことだ。こうした側近政治への批判を押しつづける形、無理に事態收拾に持ち込んだ。華国鋒首相がNO.2にランクされたとはいえず、また毛沢東の後継者とはいえない。反走資派闘争が急ぎ、力づくで決着をみたところに、将来の不安材料を残したと思う。

鄧氏の党籍は存続
——文革派と実務派に対して毛主席はどんな態度で臨んでいるのか。社会情勢によって使い分けをしているのだろうか。

中嶋 中国はこれまで穏歩と急進のサイクルを繰り返してきていて、毛主席は急進の時に急激な変革が連続革命の思想につながるという、他方で統一戦線の柔軟な思想をもっている。中国の政策的民主主義を制度的に保証するところがない。だから論争は常に食うか食われるかの闘争になりがちで、争いごとになる。

大衆は走資派支持?
——勝利を取った文革派は生産現場にある大衆からどの程度支持されているのか。

だが、これが常に権力闘争的色彩を帯びてくるのは、政策論争を政策論争として浄化する政治の仕組みがないためだ。毛沢東が百家争鳴運動(一九五六年)を展開したときも運動が最終的に毛政治への批判になると、力を押してしまつた。それ以来、毛沢東に対する反対意見が出てくる、力によつて、あるいは大衆運動によつて打倒するというパターンが定着してしまつていて、西歐型の社会主義的民主主義を制度的に保証することができない。だから論争は常に食うか食われるかの闘争になりがちで、争いごとになる。

また、こんな事件をみてもわかるように、中国人はもともと政治の世界で人間のドラマが演じられるのを好むようだ。ある意味では「三国志」以来の伝統かもしれない。この性格も政策論争が党内の主要権争いに発展する原因のひとつといえるかもしれない。

天安門事件は中国にとってユニークな事件だった。お国柄からいって数十万人の人が自然発生的に集まることは考えられず、参加した人たちは「自覚をもって組織された者」となるのが常識的であろう。鄧支持とまではいかなくても、走資派批判に対する不満や周批判への発展をおそれた人たちがみるに、このことがいかに思ふ。とくに暴力的なのは、事件の中で若い層から文革派の中心人物である江青夫人への批判が行われたことだ。こうした側近政治への批判を押しつづける形、無理に事態收拾に持ち込んだ。華国鋒首相がNO.2にランクされたとはいえず、また毛沢東の後継者とはいえない。反走資派闘争が急ぎ、力づくで決着をみたところに、将来の不安材料を残したと思う。

鄧氏の党籍は存続
——文革派と実務派に対して毛主席はどんな態度で臨んでいるのか。社会情勢によって使い分けをしているのだろうか。

中嶋 中国はこれまで穏歩と急進のサイクルを繰り返してきていて、毛主席は急進の時に急激な変革が連続革命の思想につながるという、他方で統一戦線の柔軟な思想をもっている。中国の政策的民主主義を制度的に保証するところがない。だから論争は常に食うか食われるかの闘争になりがちで、争いごとになる。

大衆は走資派支持?
——勝利を取った文革派は生産現場にある大衆からどの程度支持されているのか。

天安門事件を非難し、中国共産党の鄧副首相解任と華国鋒新首相就任の二決定を支持して8日、こぶしを挙げる中国の鉄鋼労働者たち(UPI=共同)



天安門事件を非難し、中国共産党の鄧副首相解任と華国鋒新首相就任の二決定を支持して8日、こぶしを挙げる中国の鉄鋼労働者たち(UPI=共同)

「文革以後」を軽視

鄧氏 平等な発展に目つぶる

【北京八日共同特派員】「鄧副首相・國務院副総理鄧小平同志が再登壇した」(二月十五日)と伝えた北京放送が、約一月半前、天安門事件に乗じた鄧氏のニュースは、党内職務を免除し、保護観察処分とする」という厳しいものだった。文革中、第一の実権派として批判された鄧小平は、七三年四月、劇的な復活をみせた鄧氏が、まさに「星のよう」に太陽雲内に現れ、また消え去って行った。

核戦争想定し訓練
核・生物・化学・担当将校が配属されている事実は、これまでも米軍基地の電話帳などで確認されていた。しかし、その活動内容が軍に恒久的施設内での核対策、たばこ、有事の際に編成される戦術部隊の訓練にも必ず同将校らに加わっていることが、公式に確認されたのは初めてである。

核戦争想定し訓練
核・生物・化学・担当将校が配属されている事実は、これまでも米軍基地の電話帳などで確認されていた。しかし、その活動内容が軍に恒久的施設内での核対策、たばこ、有事の際に編成される戦術部隊の訓練にも必ず同将校らに加わっていることが、公式に確認されたのは初めてである。

核戦争想定し訓練
核・生物・化学・担当将校が配属されている事実は、これまでも米軍基地の電話帳などで確認されていた。しかし、その活動内容が軍に恒久的施設内での核対策、たばこ、有事の際に編成される戦術部隊の訓練にも必ず同将校らに加わっていることが、公式に確認されたのは初めてである。

核戦争想定し訓練
核・生物・化学・担当将校が配属されている事実は、これまでも米軍基地の電話帳などで確認されていた。しかし、その活動内容が軍に恒久的施設内での核対策、たばこ、有事の際に編成される戦術部隊の訓練にも必ず同将校らに加わっていることが、公式に確認されたのは初めてである。

核戦争想定し訓練
核・生物・化学・担当将校が配属されている事実は、これまでも米軍基地の電話帳などで確認されていた。しかし、その活動内容が軍に恒久的施設内での核対策、たばこ、有事の際に編成される戦術部隊の訓練にも必ず同将校らに加わっていることが、公式に確認されたのは初めてである。

FICER OFFICIAL WEAPONS

短信

8日は午前9時30分から公館で極原副知事らと事務打ち合わせ。このあと根釧地方の風雪による被害状況、対策について報告を受け「除雪と防災体制に万全を期すように」と指示。